



園だより

2020年7月1日 第4号

杉並区立高井戸保育園

(指定管理者 社会福祉法人 東京家庭学校)

梅雨時のどんよりした空の下、くちなしのあまい香りが、疲れたところを優しくそっと包んでくれます。いよいよ7月を迎えました。臨時休園、登園自粛中の多大なご理解ご協力を頂きましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。保育園の生活が始まりますが、まだまだ感染のリスクがなくなった訳ではありません。今後もお子様の健康と安全を守ることを第一に考えて取り組んでいきます。保護者のみなさまと私たち職員とで手を携えていければと思いますのでよろしくお願い致します。

雨上がりの園庭では、水たまりを見つけて“ワア～”“キャ～”となんとも言えない表情を見せてくれる子どもたちです。たっぷり遊ぶと自分から「もう着替える」とどろんこ遊びは終了します。どろんこ遊びは『体を汚して心を洗う』と言われていました。きっと心の洗濯ができたのでしょう。満足した証なのですね。

今年の夏も酷暑となることでしょうか。夏のあそびを工夫しながら楽しく過ごせようと思っています。



星に願いをこめて☆ ちょっと豆知識！

古くから日本では、麦の収穫を祝い、ナスやきゅうりやミョウガの成長を神に感謝する収穫祭と、盆に祖先の霊を迎える前の禊として、棚機女（たなばたつめ）と呼ばれる娘が人里離れた川辺の機屋（はたや）で祖先の霊に着せるための衣服を織って一夜を過ごし、用意された棚において村の穢れをはらうという行事が、7月7日に行われていました。

そこに中国から星祭と乞功奠（きっこうでん）の風趣が入って来ました。星祭というのは天の川にさえぎられた牽牛星（ワシ座のアルタイ）と織女星（コト座のベガ）が、年に一度会うことができるという言い伝えで知られるもので、乞功奠は織物の上手な織女星を祀って、手芸や裁縫（後には習い事なども加わった）の上達を祈るというものでした。

こうして日本古来の風習と、中国からの星祭りや乞功奠とが一緒になっていきました。心を清めた人々は、笹竹を立てて、願い事や歌を書いた五色の短冊を結びつけ、翌日笹竹を川や海に流して、笹竹についた心身の穢れを洗い流すという、七夕送り、七夕流しという風習が生まれました。【昔からの言い伝えを紹介しました。】

各クラスから七夕飾りの用紙をお配りしました。お忙しいでしょうがご家族で飾りを作り、短冊に願い事を書いて子どもと一緒に飾ってくださいね。8日には子どもたちの願い事を天に届けます。

子育てメッセージ

わが子を抱きしめる
小さい体はもちろん
思いも、感情も
ぜんぶ抱きしめる
それがいちばんのプレゼント

小さなときの思い出はあまり残らないけれど、あたたかい胸の中や膝の上で憶えた安心感は、いつまでも忘れません。

子どもがいちばんほしいのは、あたたかさややさしさと、信じてもらえる安心感。だから、心の豊かな子どもに成長するためには、大人から豊かな心をいっぱいもらうことが大切なのです。

たくさんたくさん 抱きしめてあげてくださいね！